

不登校に関する講演会

「不登校の子どもの進路」

大阪市立加美南中学校
校長 阪井 千明

令和5年度 大阪市立学校における暴力行為・いじめ認知・不登校数

令和6年10月31日

1 暴力行為発生件数

年度	小学校						中学校					
	件 数			比率1000人当たり			件 数			比率1000人当たり		
	全国	大阪府	大阪市	全国	大阪府	大阪市	全国	大阪府	大阪市	全国	大阪府	大阪市
令和5年度	70,009	5,854	165	11.5	14.1	1.5	33,617	4,498	403	10.4	20.5	7.9

2 いじめ認知件数

年度	小学校						中学校					
	件 数			比率1000人当たり			件 数			比率1000人当たり		
	全国	大阪府	大阪市	全国	大阪府	大阪市	全国	大阪府	大阪市	全国	大阪府	大阪市
令和5年度	588,930	57,634	21,873	96.5	138.9	193.9	122,703	10,473	1,144	38.1	47.7	22.4

3 不登校数

年度	小学校						中学校					
	人 数			在籍比率			人 数			在籍比率		
	全国	大阪府	大阪市	全国	大阪府	大阪市	全国	大阪府	大阪市	全国	大阪府	大阪市
令和5年度	130,370	8,188	2,227	2.14	1.97	1.97	216,112	14,818	4,917	6.71	6.76	9.61

※令和5年度の小中学校別「暴力行為発生件数」「いじめ認知件数」「不登校数」については、大阪市として独自調査を実施していますので、実数(大阪市)を公表しています。なお、大阪府の比率については公表されている数値をもとに大阪市独自に計算したものを含みます。なお、小学校には義務教育学校前期課程を、中学校には義務教育学校後期課程を含みます。

大阪市立学校における暴力行為・いじめ認知・不登校数(R3～R5)

令和6年10月31日

1 暴力行為発生件数

年度	小学校						中学校					
	件 数			比率1000人当たり			件 数			比率1000人当たり		
	全国	大阪府	大阪市	全国	大阪府	大阪市	全国	大阪府	大阪市	全国	大阪府	大阪市
令和3年度	48,138	4,076	102	7.7	9.6	0.9	24,450	3,032	308	7.5	13.6	5.9
令和4年度	61,445	5,386	192	9.9	12.8	1.7	29,699	3,927	410	9.2	17.7	8.0
令和5年度	70,009	5,854	165	11.5	14.1	1.5	33,617	4,498	403	10.4	20.5	7.9

2 いじめ認知件数

年度	小学校						中学校					
	件 数			比率1000人当たり			件 数			比率1000人当たり		
	全国	大阪府	大阪市	全国	大阪府	大阪市	全国	大阪府	大阪市	全国	大阪府	大阪市
令和3年度	500,562	45,989	20,938	79.9	108.1	183.6	97,937	7,250	1,012	30.0	32.5	19.5
令和4年度	551,944	55,504	22,395	89.1	132.0	197.6	111,404	9,357	1,274	34.3	42.3	24.8
令和5年度	588,930	57,634	21,873	96.5	138.9	193.9	122,703	10,473	1,144	38.1	47.7	22.4

3 不登校数

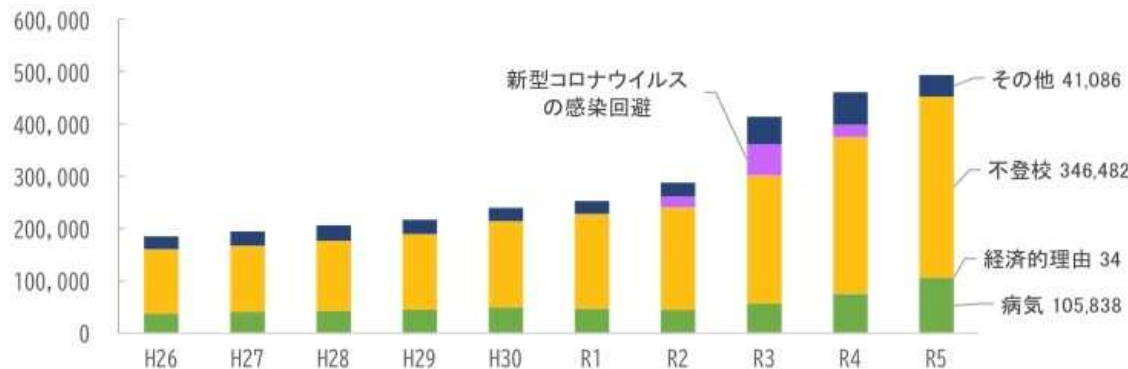
年度	小学校						中学校					
	人 数			在籍比率			人 数			在籍比率		
	全国	大阪府	大阪市	全国	大阪府	大阪市	全国	大阪府	大阪市	全国	大阪府	大阪市
令和3年度	81,498	6,190	1,673	1.30	1.46	1.47	163,442	11,919	3,934	5.00	5.35	7.59
令和4年度	105,112	7,153	1,866	1.70	1.70	1.65	193,936	13,651	4,430	5.98	6.17	8.62
令和5年度	130,370	8,188	2,227	2.14	1.97	1.97	216,112	14,818	4,917	6.71	6.76	9.61

※令和3年度～令和5年度の小中学校別「暴力行為発生件数」「いじめ認知件数」「不登校数」については、大阪市として独自調査を実施していますので、実数(大阪市)を公表しています。なお、大阪府の比率については公表されている数値をもとに大阪市独自に計算したものを含みます。
 なお、令和4年度からは、小学校に義務教育学校前期課程を、中学校に義務教育学校後期課程を含んでいます。

小・中学校における長期欠席の状況について

- 小・中学校における長期欠席者数は493,440人(前年度460,648人)。
- このうち不登校によるものは346,482人(前年度299,048人)。

小・中学校における長期欠席者数の推移
(人)



※ 令和元年度調査まで、及び令和5年度調査は、年度間に30日以上欠席した児童生徒について調査。

※ 令和2年度調査から令和4年度調査までは、「児童・生徒指導要録」の「欠席日数」欄及び「出席停止・忌引き等の日数」欄の合計の日数により、年度間に30日以上登校しなかった児童生徒について調査。

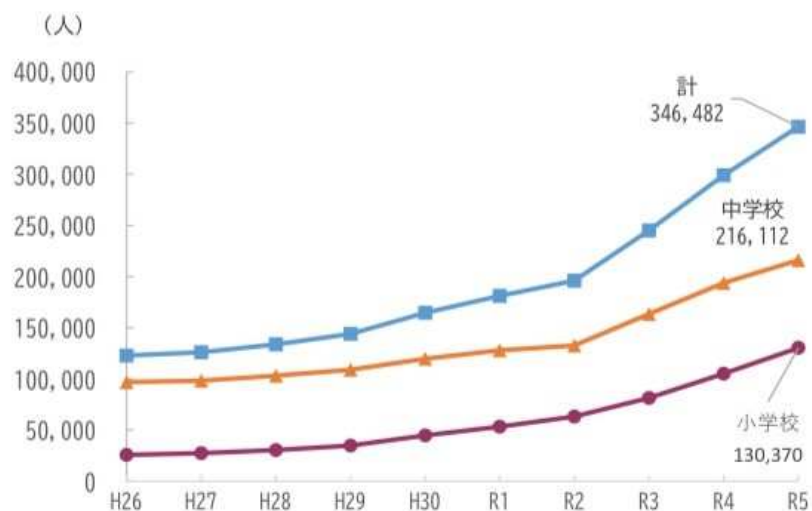
※ 令和2年度調査から令和4年度調査までは、長期欠席の理由に「新型コロナウイルスの感染回避」を追加。

		H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
小学校	病気	18,981	19,946	20,325	21,480	23,340	20,955	18,539	22,307	31,955	57,905
	経済的理由	25	18	12	9	15	11	13	7	16	17
	不登校	25,864	27,583	30,448	35,032	44,841	53,350	63,350	81,498	105,112	130,370
	新型コロナウイルスの感染回避	※※※	※※※	※※※	※※※	※※※	※※※	14,238	42,963	16,155	※※※
	その他	12,992	15,544	16,308	15,997	15,837	15,773	17,606	34,100	43,438	29,946
中学校	計	57,862	63,091	67,093	72,518	84,033	90,089	113,746	180,875	196,676	218,238
	病気	18,870	21,118	22,488	23,882	26,284	25,779	25,888	34,652	43,642	47,933
	経済的理由	39	31	17	18	9	19	20	12	20	17
	不登校	97,033	98,408	103,235	108,999	119,687	127,922	132,777	163,442	193,936	216,112
	新型コロナウイルスの感染回避	※※※	※※※	※※※	※※※	※※※	※※※	6,667	16,353	7,505	※※※
計	その他	11,247	12,250	13,460	11,623	10,026	9,016	8,649	18,416	18,869	11,140
	計	127,189	131,807	139,200	144,522	156,006	162,736	174,001	232,875	263,972	275,202
	病気	37,851	41,064	42,813	45,362	49,624	46,734	44,427	56,959	75,597	105,838
	経済的理由	64	49	29	27	24	30	33	19	36	34
	不登校	122,897	125,991	133,683	144,031	164,528	181,272	196,127	244,940	299,048	346,482
計	新型コロナウイルスの感染回避	※※※	※※※	※※※	※※※	※※※	※※※	20,905	59,316	23,660	※※※
	その他	24,239	27,794	29,768	27,620	25,863	24,789	26,255	52,516	62,307	41,086
	計	185,051	194,898	206,293	217,040	240,039	252,825	287,747	413,750	460,648	493,440

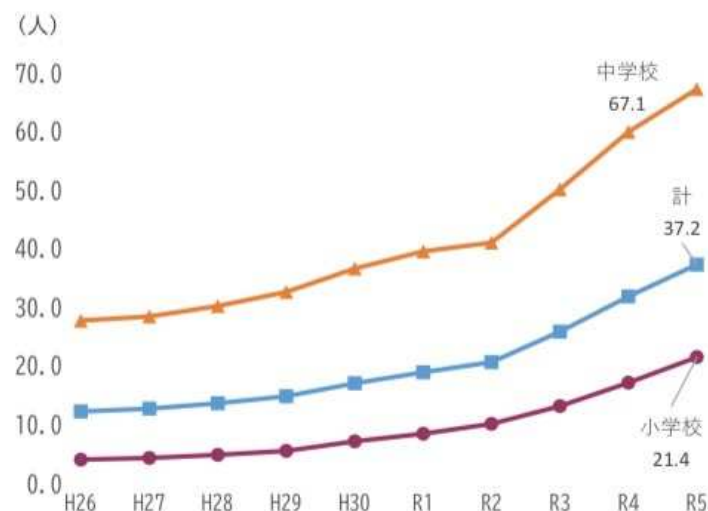
小・中学校における不登校の状況について

- 小・中学校における長期欠席者のうち、不登校児童生徒数は346,482人(前年度299,048人)であり、児童生徒1,000人当たりの不登校児童生徒数は37.2人(前年度31.7人)。
- 不登校児童生徒数は11年連続で増加し、過去最多となっている。

不登校児童生徒数の推移



不登校児童生徒数の推移 (1,000人当たり不登校児童生徒数)



不登校児童生徒数(上段)と1,000人当たりの不登校児童生徒数(下段)

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
小学校	25,864	27,583	30,448	35,032	44,841	53,350	63,350	81,498	105,112	130,370
	3.9	4.2	4.7	5.4	7.0	8.3	10.0	13.0	17.0	21.4
中学校	97,033	98,408	103,235	108,999	119,687	127,922	132,777	163,442	193,936	216,112
	27.6	28.3	30.1	32.5	36.5	39.4	40.9	50.0	59.8	67.1
計	122,897	125,991	133,683	144,031	164,528	181,272	196,127	244,940	299,048	346,482
	12.1	12.6	13.5	14.7	16.9	18.8	20.5	25.7	31.7	37.2

◆自己紹介

大阪市立加美南中学校

校長 阪井 千明 [64歳]

2015年度(平成27年度)～2018年度(平成30年度)
大阪市立花乃井中学校 教頭 として勤務

役職 大阪中学校体育連盟ラグビー専門部長
大阪市立中学校長会生活指導部長
大阪市PTA協議会副会長

2017年(平成29年) 2 月 教育機会確保法が施行

2018年(平成30年) 大阪市教育委員会が
不登校対策モデル校を指定

【矢田中(小規模校)・此花中(中規模校)・瑞光中(大規模校)】

2019年(令和元年度) 瑞光中学校長として赴任

「つながる2019」の開催を企画

<HP掲載用に追記>

以降、コロナ禍による中断があったが、2022年以降、
毎年開催

保護者の皆さんは、お子さんに「**どのように接したらいいか**」で悩んでいませんか？

- ・どんな声かけをしたらいいのかわからずに困っている。
- ・登校の兆しが見えない我が子にイライラしてしまう。
- ・暖かく見守り続けているが、今後に不安を感じてきている。
- ・自分の子育てに自信がなくなっている。

「不登校」は「個人」と「環境」
のミスマッチから生じる現象である。

2016年（平成28年）9月[文部科学省]

「不登校を問題行動
と判断してはならない」

学校の役割は

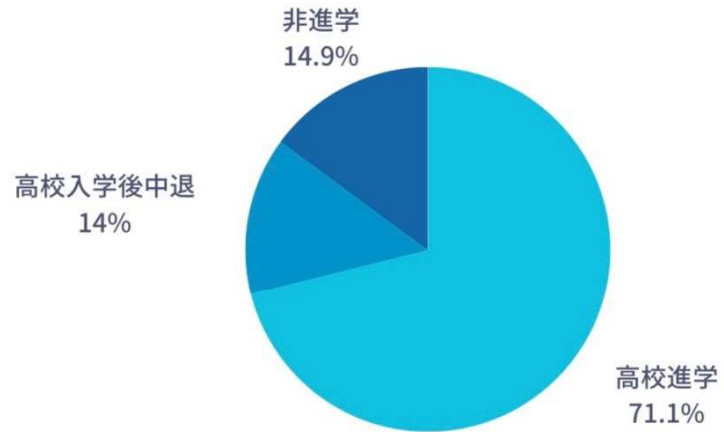
「**教育**」(教える育てること) と

「**コミュニティ**」

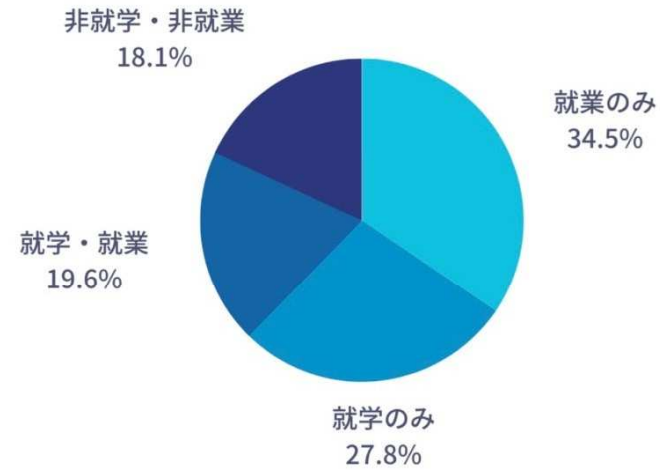
(共通の目的や興味を持つ人々の集まり)

の2つです。

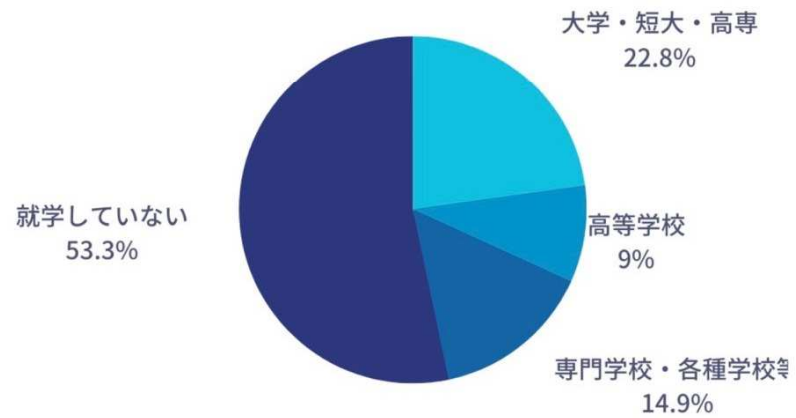
中学校卒業後の高校進学状況



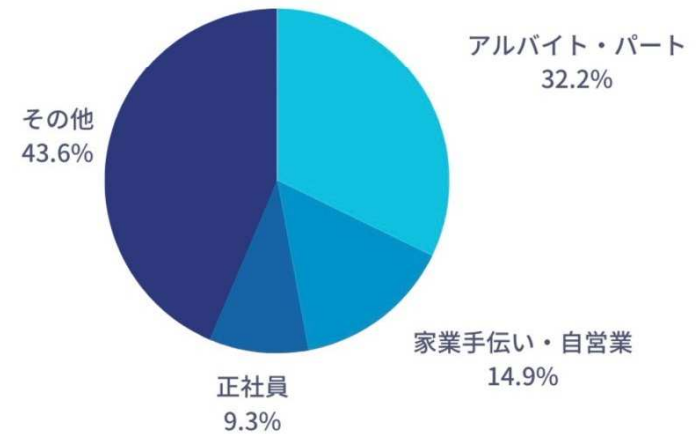
20歳現在の就学・就業状況



20歳現在の就学先



20歳現在の就業状況



不登校生の意識調査結果

◆不登校経験を肯定している人は **1 割**

- ・休んだことで今の自分がある。
- ・人として成長した。
- ・人とは違う経験をした。
- ・人に優しくなった。

◆不登校経験を肯定している人の **考え**

- ・クラス全員から仲間外れの状況で学校に行っていたら、自分で命を絶っていたかもしれない。
- ・死にたいときもあった。不登校がなければ今がないと思うし、不登校以外に生きる道がなかった。

◆不登校経験を **後悔する意見**

- ・学力がないから高校に進学できなかった。不登校になっていなければ、別の人生を歩めたかもしれない。
- ・周りの人が学生時代の友人の話をしているのを見ると羨ましくなる。
- ・いろいろな経験ができる貴重な期間を無駄にしてしまった。

不登校中の**自分**にできること

- ◆規則正しい生活を送る。
- ◆勉強をする。
- ◆やりたいことをする。
- ◆自分の中で大まかなゴールや理想像を見つける。

不登校中の**保護者**にできること

- ◆生活習慣のサポートをする。
- ◆親子での会話を意識する。
- ◆登校再開を急がない。
- ◆学校と連携をとっておく。
- ◆保護者自身が余裕を持つ。

COCOLOプランとは

誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策

COCOLOプランを構成する三つの柱



誰一人取り残すことのない学びを保障するためには
不登校を否定的に捉える見方を変えていく粘り強い取り組みが必要

学びの多様化学校とは

学びの多様化学校とは、不登校児童生徒の実態に配慮して
特別の教育課程を編成し、教育を実施している学校のこと

2023年8月31日に不登校特例校から改称

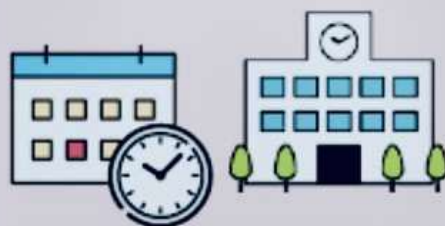
学びの多様化学校の主な効果

子どもの社会性の
育成につながる



異学年交流や地域の人々、
自然との触れ合いを通じて、
社会性の育成につながる

登校へのハードルを
下げられる



始業を午後からにする、
教育課程の編成を工夫する
ことで学校に行きやすくなる

きめ細やかな支援を
子どもにできる



多くの職員が児童生徒の支援に
携わることで、児童生徒の小さな
変化や成長にすぐに気づける

● 学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）の設置者一覧

学びの多様化学校(いわゆる不登校特例校)の 設置状況(R6)

学校数(35校)
 【うち、公立学校21校、私立学校14校】



大阪市の不登校支援にかかる各校での対応及び事業

一次【未然防止】

不登校が生じない魅力あるよりよい学校づくり

○全児童生徒（164,183人）

（学校の対応）

- ・いじめ、暴力行為を許さない学校づくり
- ・児童生徒の学習状況等に応じた指導・配慮
- ・保護者・地域等の連携・協働体制の構築
- ・将来の社会的自立に向けた生活習慣づくり

共 通

- ・学校安心ルールの活用

二次【早期発見・早期対応】

予兆への対応を含めた初期段階からの早期支援

- ・遅刻・早退及び欠席しがちな児童生徒
- ・登校しても自分の教室に入りづらい児童生徒

（学校の対応）

- ・3日連続欠席した児童生徒への家庭訪問の徹底
- ・全教職員共通理解のもと、組織的・計画的な支援
- ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携

- ・スクールソーシャルワーカーの派遣

- ・大阪市版スクールロイヤーの活用

（新規事業）R6より

◆校内教育支援センター（スペシャルルーム）のモデル設置

- ・SNS相談の実施

- ・心の天気

- ・相談申告機能

三次【個に応じた支援】

多様な教育機会の確保

○不登校児童生徒（7,144人）

- ・自分の教室以外であれば登校できる児童生徒
- ・学習意欲があるが登校できない児童生徒
- ・学びの多様な学校への登校意欲があり、在籍校での支援に加え、関係機関等の支援は受けているものの、在籍校への登校が困難な生徒

（学校の対応）

- ・各校による学習者用端末による自宅学習
- ・家庭訪問
- ・別室による学習等の支援
- ・学校外における公的機関や民間機関等との連携

（新規事業）R6より

◆校内教育支援センター（スペシャルルーム）のモデル設置

（継続事業）

◆教育支援センターの運営

（新規事業）

◆学びの多様な学校（心和中学校）の設置・運営
R6.4.1開校

（新規事業）
R6より

◆登校支援室「なごみ」の運営

- ・学習動画コンテンツ配信による支援

中学生の進路

- ①全日制高校進学
- ②定時制高校進学
- ③通信制高校進学
- ④高等専門学校
- ⑤高等専修学校
- ⑥民間教育施設（サポート校・フリースクール等）
- ⑦職業能力開発校
- ⑧留学（海外留学・国内地域留学）
- ⑨高卒認定の取得
- ⑩就職

全日制高校（府立高校）

◆多部制単位制・・・大阪わかば高校

（時間割が柔軟なタイプ）

◆エンパワーメントスクール・・・成城高校・淀川清流高校 ・長吉高校・布施北高校

（つまずきを学び直し、社会で活躍するための力を養うことを目指す）

◆ステップスクール・・・西成高校・岬高校

（就職や進学を視野に基礎的な学びや体験的な学びを行う）

全日制高校（私立高校）

◆エンカレッジコース・・・金光藤蔭高校

（不登校生のための学級編成）

◆キャリアアシストコース・・・東大阪大学柏原高校

（不登校生のための学級編成）

◆興国高校（不登校生のための対応をしている）

定時制高校（府立高校）

◆昼夜間単位制・・・中央高校

（科目自由単位制といって、入学後に昼間中心か夜間中心か、自分の生活スタイルに合わせて学習時間帯を選択します。）

通信制高校（府立高校 1 校）

◆通信制単位制・・・桃谷高校

通信制の課程には、昼間部と日夜間部があります。

昼間部と日夜間部では、スクーリングの「曜日」と「開講時間帯」が異なるだけです。

昼間部は月・水・金曜日の午後に、日夜間部は月・金曜日の夜間と日曜日にそれぞれスクーリングを実施しています。

教育内容は昼間部も日夜間部も同じです。

通信制高校（私立高校 13校）

- ◆決められた単位数の取得と36か月以上の在籍期間と
（転入の場合・・・前在籍校の在籍期間を認定する場合あり）
50時間以上の特別活動への参加で卒業資格を得ることができる。
- ◆カリキュラムは学校によってさまざまで、スクーリング期間
（年間10日ほど）を除き、必ずしも登校の必要はない。
「週5クラス」「週3クラス」等、独自のカリキュラムを
設置している高校もある。
- ◆2023年度の文部科学省の学校基本調査結果
通信制高校の在籍生徒数【26万4974人】
前年より【2万6530人増加】しており、
高校生の9.1%（12人に1人）が通信制高校の生徒です。



大阪市発達障がい者支援センター 「エルムおおさか」のご案内

発達障がいに関する専門の相談機関として、大阪市発達障がい者支援センター「エルムおおさか」があります。

「エルムおおさか」では、発達障がいのある方やそのご家族を対象に、療育や就労等の各種相談をお受けしています。発達障がいに関する情報提供や助言を行い、相談内容によっては、学校や施設等の関係機関と連携して問題解決・軽減のための支援を行います。

また、発達障がいに関する正しい理解や適切な支援の方法を知っていただくための研修も行っています。

ここで発達ノートを配付しています。発達ノートをご希望の方は、こちらまでお問い合わせください。

面談が必要なときは、事前に電話・FAX・E-Mailのいずれかによりお申し込みください。

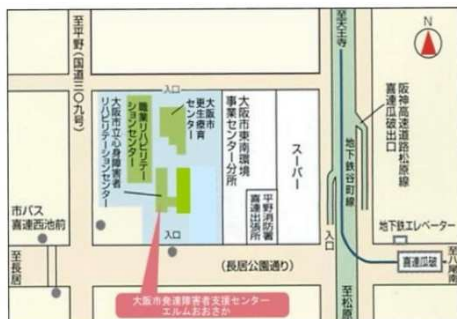
場 所：大阪市平野区喜連西6-2-55

大阪市立心身障害者リハビリテーションセンター2階

電話番号：(06) 6797-6931 FAX番号：(06) 6797-6934

E-Mail：hattatsu-shien@feel.ocn.ne.jp

受付時間：月曜日～金曜日の9時～17時（祝日、年末年始を除く）



地下鉄谷町線『喜連瓜破』駅
①番出口下車 西へ徒歩5分

市バス『喜連西池前』下車すぐ



私立高校・公立高校の学習費総額

	私立高校	公立高校
1年間の平均学校教育費	750,362円	309,261円
1年間の平均学校外活動費	304,082円	203,710円
1年間の平均学費総額 (学校教育費+学校外活動費)	1,054,444円	512,971円
3年間の平均学費総額 (1年間の平均学費総額×3)	3,163,332円	1,538,913円

通信制高校にかかる学費や費用

初年度でかかる通信制高校の学費の目安

費用の種類	公立	私立
入学金	500円	2～5万円
授業料	年間1～3万円程度 ※1単位300円～ 1000円	年間18万円～ ※1単位6000円～
教科書代や施設費 など 授業料以外にかかる費用	年間3万円程度	ネットコース 年間3 万円～ 登校コース 年間10 万円～